

「チェキで結晶を撮影する(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

デジタル・チェキの撮影データは、内部メモリーかスロットに挿したSDカードに記録される。フィルムが切れても、普通のデジカメとしても使える。その場でプリントする他、出来の良い写真はコンピュータに保存し、あとで投影したり大版サイズ印刷も可能だ。



実験後にベストショットを選ぶのは、とても楽しい時間だ。一人一枚が自分で撮った写真をプリントしても良いし、研究所(班)で撮った写真の中で最も良いものを、人数分プリントもできる。



プリントしたい写真が決まったら、緑のボタンを押し、真ん中のOKボタンを押すと、プリントが始まる。画面の一部分を拡大したり、4枚の画像を「田型」に印刷することも可能だ。動画から切り出しての印刷もできるので、体育の授業でも役立ちそうだ。液晶画面が上にずれて、そのままプリントが出てくるような、楽しいデザインになっている。



今は、インスタントカメラそのものがほとんどの家庭にないので、子どもたちはカメラから出て来る写真に大喜び。キャーキャー言いながらプリントしていた。



プリントにかかる時間は約20秒。その後、2~3分放置すると、画像が現れる。もちろんカラーなのだが、結晶の写真はモノクロ写真に近い。右下に日付を入れることもできるので、記録写真としても便利だ。



今はデジカメそのものは各家庭に普及しているので、撮影が初めてという子どもはほとんどいない。しかし、自分たちで実験した結果を、自分で撮影して、自分でプリントした・・・という体験はないだろう。どの子どももとても満足していた。